

[26_3] 図書館情報 : 九州大学附属図書館報 :
26(3)

<https://doi.org/10.15017/25120>

出版情報 : 図書館情報. 26 (3), pp.11-20, 1990-11-01. Kyushu University Library
バージョン :
権利関係 :



九州大学附属図書館報

図書館情報

The Kyushu University Library Bulletin

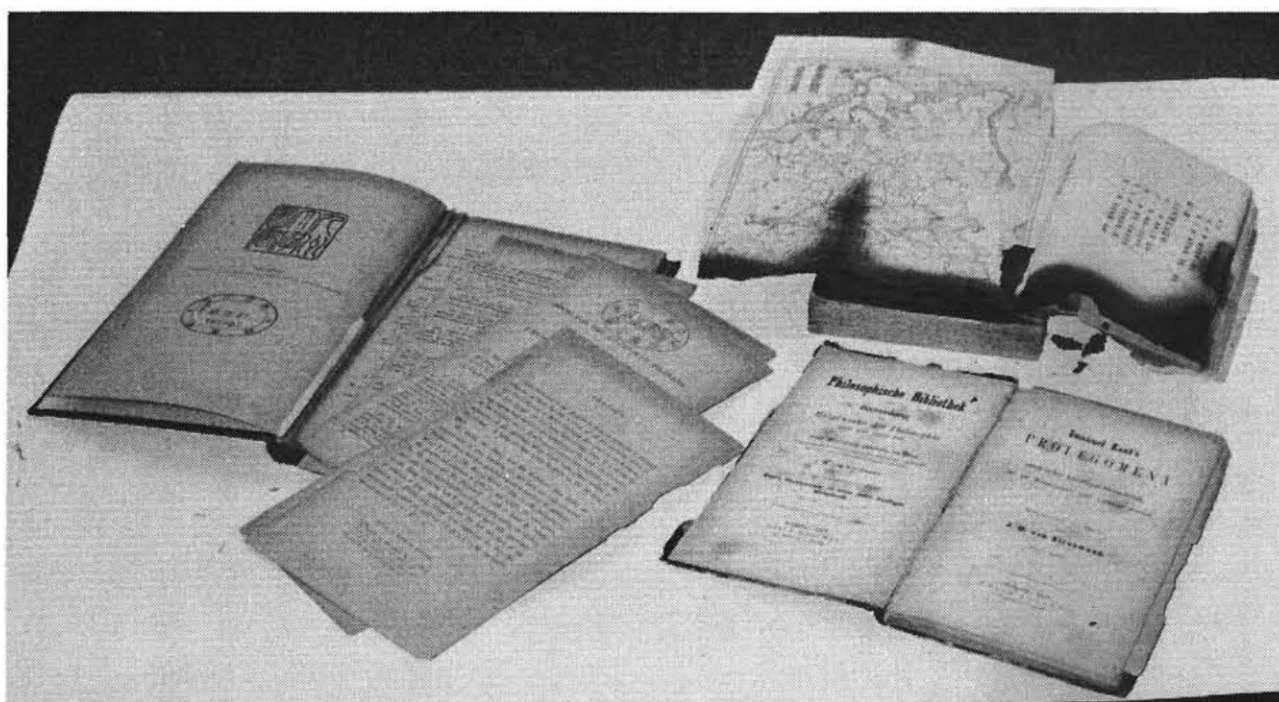
Vol. 26, No. 3 (1990)

目次

- 九州大学中央図書館蔵書の酸性劣化調査報告 11
- 中央図書館貴重文物展観 16
- 平成元年度附属図書館三館サービス統計 18
- ニューメディア時代・利用者用パソコンを導入 19
- 大学共同機関等の相互利用が可能となりました 19
- 平成元年度特別図書リスト 19

九州大学中央図書館蔵書の酸性劣化調査報告

落 石 清



本学所蔵の酸性劣化した19世紀の内外資料

書籍とりわけそれに使用されている用紙の酸性劣化は、欧米では早くから問題視され、国際的にもいろいろ対策が講じられている。わが国の図書館界では1980年を過ぎてからようやく問題提起され始め、「国立国会図書館月報第274、280号(1984年)」「図書館雑誌第78巻(1984年)」「びぶろす第34巻(1983年)」等主要誌その他に研究論文・調査報告が発表されている。また、

最近テレビや新聞等マスコミも特集として酸性紙問題を番組紙面にとりあげたのは周知のとおりである。このたび、第4回日米大学図書館会議のコミュニケを受けて、第36回国立大学図書館協議会(平成元年6月29・30日於弘前市)で酸性紙資料問題が論議され、ひとまず、その劣化程度および、数量を把握する必要から、全国立大学図書館の状況調査が要請され、本学が全国

国立大学調査の世話役となり、中央館も早速点検調査に当たった。平成2年度の第37回の同協議会(平成2年6月28・29日熊本市)において集約報告して討議され、これについて根本的には国家的見地での対応が不可欠であるとのことであった。国立大学図書館での調査の集約は、「大学図書館研究第36号(1990年7月号)」に掲載され、本学の具体例も極く簡単な要旨の形で発表した。しかし、中央館としては、今後来るべき酸性紙資料保存のための具体的処置を検討する場合のために中央館の詳細な調査結果を残すべきであると考えてここに報告するものである。

中央館資料酸性劣化調査の概要

さて、中央館においては、全蔵書を鋭意調査点検することとなり、まず調査に先だって、中央館蔵書構成の特徴を検討した。代々の碩学が生涯を懸けて蒐集したユニークなコレクションが多数あり、これらはオリジナルの古典や掛替えのない貴重な資料が多数含まれ、それぞれの分野の集大成として特に大切に扱われている。従って、本学におけるこれら貴重な資料の劣化に対する対策の前段階としての第一歩を踏み出した意義が大きいことを職員が充分理解し、暑いさなか長期間の緻密な調査に当たった。

今回は、酸化測定器や顕微鏡などを使用しない、いわゆる目で見て、手で触れての司書の主観的判断に委ねられた調査方法をとったため、到底精密な数値は得られない。そこで、酸性紙調査報告やパルプ工業史の資料から、欧米やわが国における工業化の過程を念頭におき、調査計画を立てた。形態を含めた劣化の状態がおおむね分析できるように想定し、且つ簡単に記入できるような調査票を作り作業にとりかかった。劣化進行評定規準は、今回の調査要領で示された(ア)「周辺変色」、(イ)「いちぢるしい劣化」の二規準を対象とし、米国ミシガン大学図書館の5段階評定即ちExcellent, Good, Fair, Brittle, Very Brittle(図書館雑誌第78巻429頁)のうちBrittleを(ア)、Very Brittleを(イ)と呼び、Excellent, Good, Fairは対象外として貴重書・コレクションを始め、逐次刊行物から一般モノグラフまで風漬しに点検して調査票に記入した。

本学中央図書館の昭和63年度末現在での蔵書冊数は、洋書86,629冊、和漢書296,676冊合計383,305冊である。酸性劣化資料調査の結果(ア)Brittleが洋書6,197冊(7.15%)、和書11,645冊(3.93%)、(イ)Very Brittleが洋書797冊(0.92%)、和書3,709冊(1.25%)あり、今回調査対象となった中央館所蔵の酸性劣化資料の総計は22,348冊で全体の5.83%に当たることが判明した。

(「大学図書館研究」第36号18頁参照)。

中央館でもそうであるように、一般的に総合大学図書館の蔵書には、日・英・米・独・仏の出版物がその他の言語のものより圧倒的に多数収集されているのが普通であろう。本学業務電算化以前に収集したものは、発行国別、言語別、出版年別にそれぞれ蔵書冊数を把握することはできないが、今回の調査にあたって酸性劣化の傾向として、日・英・米・独・仏の出版物については部分的にはユニークな資料に片寄っているかも知れないが、ほぼ正しい調査データが得られたことと思う。その他の発行国又は言語の資料は、32ヶ国にもものぼるが、比較的僅少であるため、たまたま劣化を発見したものからは推測の域を脱し得ないので、コメントは差し控えたい。

総 体 評 価

総体的に、19世紀以前に出版された洋書でラグ紙(ボロ布などを原料とした)、コットン紙(1200—1885年間シリアからヨーロッパに輸入)使用の資料には、微か酸性劣化か不明の斑点変色が顕しい。当時の製紙技術では原料中の不純物除去が未熟であったろうし、臼、杵、鍋、網等からの金属粉が紙に残り酸化したり、書籍に仕上がるまでの工程や読者の手垢が長年月を経て影響を及ぼした可能性もある。ヨーロッパでは古くから紙の流通が盛んで、この紙がどこの生産紙であるのかの同定は困難である。

また、劣化の進んだものの中には、余白の部分は良好であるが、内容印刷の印字部分が活字から行間へ2～3ミリほど茶褐色の滲み変色を呈し裏面のインクも透けて見えるものが多数発見された。これはサイズ剤(インクの滲み止め)の不備からインクによる紙への化学変化が生じ

たものと考えられる。それから、製本ボール紙とタイトルページの間の見返し紙の変色が顕著で、もともと、無印刷白紙のはずが全体茶褐色となり、このようなものは、タイトルページや序文、Appendix等へ変色劣化が転移している。

タイトルページ裏に蔵書印押印朱肉が対面序文等への転写を防止する目的で、新聞紙を小さく切った短冊が受入押印時から挟められているが、それが対面に克明な短冊跡形を残していることから、新聞紙等の強酸紙から弱酸紙への酸の浸透、異物挟込みによる隙間からの空中水分が酸加水分解を助長したことが推察できる。

パルプ工業化初期の特徴として、亜硫酸（サルファイト）パルプ以前の梓木パルプを書籍用紙に使用された時代（1845年頃）は、紙全体が厚く均質に変色しており容易に判断できる。その後のサルファイトパルプ初期（1880～1900年頃）からは紙をなるべく薄く且つ不透明に製造することに力がそそがれた。紙が薄いと言うことは、一般的に空中水分の浸透が急速であり変色劣化の速度が早いわけである。この時期の資料に劣化が顕かしいのは、紙表面の処理技術が酸化防止対策にまで及ばなかったと言うよりも、大量の紙を社会へ供給することがより重要な時代であった。

調査に当って学問分野の分類別で気が付くことは、芸術分野の豪華本には写真用紙・アート紙・グラビア紙が、辞典類にはインデアン紙が多く使用されており劣化は殆んど認められない。三辺切断小口に金箔やマープル、赤、青の塗料がほどこされているものなどについては良質紙が使用されており、おおむね良好であることは想像にかたくない。また高価な医学書や権威ある理科系資料については他の分野の資料に比べて極端に劣化が少い。やはり劣化が多いのは、哲学、歴史、文学、社会等いわゆる文科系統のものであり、特に廉価版、ポケット版等小型本が顕著である。なかでも、大家（例えば Kant, Hegel など）の著書を学生の学習目的に教科書スタイルで出版されたものがあるが、これらは安価に提供する必要から紙質が悪く劣化程度が酷い。これと同じ範疇と思われるものに、米英独仏に共通した現象として、他国大家、文豪の自国語繙訳本に目立って劣化が認められる。

米 国

各国別に、まず、米国の出版物については、(ア)447冊、(イ)21冊（各国の劣化冊数・劣化資料出版年等は「大学図書館研究」第36号18頁を参照のこと）であるが、モノグラフでは19世紀のキリスト教ゴスペルや教育学者 Swedenborg の英訳繙刻本に劣化が散見できる程度であり、残りは新聞である。ただ、新しい出版物で写真紙表紙のポケット版が、周辺変色を起している。これはもともと個人の教養読書用として消耗されてしかるべく出版されたもので粗雑な紙が使用されている。

英 国

次に英国の出版物も(ア)1,025冊、(イ)14冊と米国同様に、Hobbes や Locke の著作やパンフレットに劣化が散見され、そのほとんどは新聞の劣化が冊数を大きく稼いでいるのみである。なかんづく、米英両国の出版物は両大戦中のものでも他国に比較して格段の良質紙が使用されており、さすが戦勝国、技術先進国、資源保有国の感がある。

独 逸

ドイツの資料については、酸性劣化の激しいものが多数見受けられ、パルプ開発史の形跡を如実に物語っており、(ア)2,195冊、(イ)480冊もある。まず、ギリシャ哲学、ローマ古典、中世神学などラテン語の古い複製版を筆頭に、19世紀の出版物で、クロース製本でなく黒いボール紙製本の背の上方にペン書きで著者の名前、省略書名を記した小色紙を貼付けた体裁の Kartonierte と呼ばれるもの、この種の蔵書が多いのであるが、梓木パルプまたはサルファイトパルプ初期のもので酸性劣化が甚しい。出版年代的には極く古いものから新しいものでは1950年頃まで、他国に比べ多数の劣化冊数がコンスタントに推移する。とりわけ、1917—1922年のものが群を抜いているのは、第一次世界大戦末期から戦後のドイツ経済破綻に由来することは周知のとおりである。また、ライプツヒ出版の資料が他の都市のものよりも圧倒的に多いのは、同市が1825年から、1945年にフランクフルトへ Deutschen Buchhandels（出版、取次、書店業者団

体)の本拠地が移るまで全ドイツ出版物の中心都市であったこと、すなわち中部山岳地帯の森林資源を控えた立地条件の外に、出版ギルドや学術文化の中心でもあったという歴史的背景が見逃がせない。特にドイツ資料劣化のなかで、注目すべきことに、社会主義・共産主義運動資料がある。これらは、当局からの弾圧の手をかくぐり、地下出版として闇から世に出たものが多いのであるが、大衆情宣のため極く安価でなければならず、劣悪紙を使用した出版であった。Proudhon, Bakounine, Kropotkin, Bernstein, Kautsky, Sombart, Luxemburg, Liepknechtの名著やDietz社の双書Internationale Bibliothek, Kommunistische Internationaleなどが最悪の状態で朽ち果てていることをここに特記したい。

仏 蘭 西

次に、フランスの出版物劣化の状況は、穏やかなものは、極く古いものから散見できるが、やはり19世紀中期頃からだんだん激しくなる。中央館は欧州における東洋学資料を意図的に蒐集した経緯もあり、特に日本学に関するものを大切にしているが、これにはフランスのものが若干あり軽傷とは言え由々しきことと認識している。また、1922～1930、1947～1951年出版のものがずば抜けて劣化しており、第一次大戦後ドイツの1917～1922年と比べフランスでは年代的に少しずれがあるのは興味をそそる。大体フランスの本はペーパーバックで出版し、読者が、ペーパーナイフを入れながら読み進み名著ならば好みに合せて皮革等で製本して保存し自家葉籠中のものとする習慣が重んじられて来た。日本に輸入到来されたものは、その多くが長年月ペーパーバックのまま書庫に放置されているのが現状であろう。これらの本の天側には埃が積もり水分を吸収して紙にしみ付き、天の角がめくれて広がり、糸切れを起している。色紙表紙はクラフト紙系統で印刷用白紙に比べ原料製法が異り、染料をはじめ多くの化学薬品が使用されている。しかも最外部に貼付けてあるため風化の度合も早く、タイトルページに転移劣化がはなはだしい。製本費を惜んだがために劣化が

急速に進行したと断言できるケースが夥しく、早急に製本補修をすることが必要である。

中 国

和漢書として、まず中国書の新学(辛亥革命1911年以降の洋装本)について、やはり中央館収書は戦前は満州国関係、戦後は入手経路の関係から台湾、香港側に片寄った傾向があり、しかも小量で明言できないが、傾向として劣化は中華民国13(1924)～31(1942)、41(1952)～47(1958)年出版に集中している。これは日本を中心とする外国干渉から戦争への泥沼と経済破綻の時期及び戦後の復興期である。なかでも、ホッチキス針金綴じペーパーバック小冊子が紙質も悪く目立って変色劣化である。商務印書館のペーパーバック、五四運動期の名著や満州国時代の政府出版物が劣化進行している。清朝期の線装本のなかに竹を原料としたと考えられる黄ばんだ極く薄い紙のものが傷んでいる。これは化学パルプではないが酸化なのかどうか不明である。その他に小量ではあるが香港、マカオ、上海等古い外国植民租界都市出版の洋書に劣化が認められた。

日 本

最後に日本の出版物については、(ア)11,492冊、(イ)3,567冊もある。主に官民各種調査報告書の類いや現在ではパンフレット扱いされる小冊子が劣化の冊数を大きくさせているし、第二次大戦時及び終戦直後のものはすべて劣悪紙である。和紙のものは虫喰い水濡れ焼焦げよごれの外には人災以外に傷んだものがないのはアルカリ紙の由縁である。ただ一点「百万塔陀羅尼經」(770年)が1200年を経て一部が朽ち果て無残な姿で二枚のガラス板の間に封入されている。

明治初期のものとして、御雇い外国人が残した著書を初め、啓蒙思想書、各省庁が翻訳出版した洋学書や明治法律学校教科書等が劣化し、この時期のものにはおもしろいことに、良悪両質紙が混合されて印刷され綴じ合わされたものがある。また、この期のものは洋紙の腰が弱いのか途中ページが綴糸の手前から破れ剥離した

のが見られ、梓木パルプかインクの滲みが多くパルプ工業化と言えども創業揺籃期であり、輸入併用期でもある。

明治30年代から洋装本出版が盛んになり、紙質も向上しむしろアルカリ紙と思われる良質紙もかなり現われてくる。明治中後期にかけては、沿革誌関係、参謀本部の日清・日露戦誌、少年双書、裁判判決録、国書刊行会出版物、大日本俳諧講習会出版物、本居宣長全集(明治34年)、大宰管内志(明41)、国書出版会社(大阪)の古典復刻版、裳華書房偉人史双、文豪の初版単行本が危険である。明治33(1900)年から大正期を経て昭和の大戦前13(1938)年までは分野別にも万遍なく毎年100冊程度の劣化冊数が推移する。

軍需物資優先、経済統制の気運が高まった昭和14(1939)年から突然劣化冊数が急増する。ご多聞にもれず、国粹関係資料が目立つ出版であった。終戦及びその翌年は戦災で出版事業が壊滅し、一方、大学図書館も資料の疎開等で忙しく、従って収書も少い。昭和22(1947)年から再び増加傾向を見せ、戦中は軍部、終戦直後はGHQ検閲からの解放とともに自由の気運に萌え、雨後の筍の如くあらゆる分野の出版が粗末な薄紙表紙の劣悪紙で出版され昭和25(1950)年に最高潮に達する。以後徐々に減衰し、昭和27(1952)年からは突如として良質紙に好転し始める。これは、物資統制令の撤廃と、セミケミカルパルプ技術の導入が軌を一にしている。しかし、雑誌資料については未だ良質紙は使用されず、比較的冊数は減少するが、カストリ・大衆・文芸雑誌が昭和44(1969)年頃まで酸性紙の使用が持続されている。

む す び

この様に、今回の酸性紙調査によると、劣化は予想を上回る速度で進行していると実感される。劣化資料をとり出してみると、たしかに、個々の資料価値は、玉石混交ではあるが、本学の或る歴史学研究者が驚嘆したように、なかには貴重なものが消滅しつつあることも事実である。過去の利用・保存状態もさることながら、比較的新しい資料も文化財と見做されうること



九州大学新聞 昭和2年6月18日創刊号

や、これら諸科学発展の大切な記録がひどく劣化しているのを発見するたびに、これらを後世に確実に伝えることができるだろうかと心許ない気持ちがよぎる。劣化の進行がもっと、より具体的に明らかにされ、何らかの対策が緊急に実施されなければならないのであるが、その膨大な量から経費的に一挙には追付かない。幸い国立国会図書館が明治期和書についてマイクロ化を進めているが、中央館も消極的ではあるが取敢えず延命手段としてまず次のような処置を講じた。即ち、劣化のひどい(イ)に相当するものは、別置の代本板を入れ、除湿換気装置運転の地階保存書庫北側に閉架し、複写、貸出等の利用を制限した。また、散逸の懸念がある表紙剝離、背割れ、糸切れ、頁離脱資料はエンベロップ(中央館ではライオン事務機社製ビニール袋Pポケットを使用)に封入し、風化と湿気を防いだ。ペーパーバック資料も、修理製本の年次計画を立てて極力劣化を防ぐ方向で検討し、さらに、将来マイクロ化事業を行う際の準備作業として入念な再調査を行い、パソコン入力して[全国で学情センターへ(イ)のみを遡及入力するのが望ましいと思っているが]記録を保存し、貴重稀覯本から優先に漸次救命化をはかってゆく手だてを講じたところである。

参考文献：「大学図書館研究」第36号20頁参照のこと

(情報サービス課 図書館専門員)

中央図書館貴重文物展観

去る10月15日から10月26日までの11日間、〈『ローマ法大全』関係図書〉というテーマで第31回目の貴重図書の展観を中央図書館メインロビーで行い、本学所蔵の貴重図書からテーマに添った図書10点を選定し展示しました。

期間中には、法制史学会第38回研究大会も本学で開催され、学内外から多数の来館者がありました。

この展観にあたっては、法学部西村重雄教授より解説を頂きましたので、以下にその要約を掲載します。

(情報サービス課 閲覧掛)



展 観 風 景

『ローマ法大全』関係展観図書 解説

東ローマ帝国ユースティニアヌス大帝(在位527年-565年)は、旧ローマ帝国版図の多くを回復すると同時に、従来の法学説および勅法の集大成を命じた。その成果として533-34年に学説彙纂50巻、勅法彙纂12巻が成立し、同時に作成された法学提要(入門書)4巻(以上は大部分ラテン語)およびその後帝が発布した新勅法(168の勅法・殆どギリシャ語)をあわせてユースティニアヌス帝法典あるいは『ローマ法大全』とされる。

この法典は東ローマ帝国においてはその滅亡に至るまで基本的には現行法の効力を持ち続けたと考えられている。他方、西ヨーロッパでは、中世の11世紀になってボローニア大学を中心とする学者の尽力により再び理解が可能となり復活することとなった。これに数多くの注釈Glossa(通常はその集大成としての13世紀中頃のアックルシウスの標準注釈)が付されて写本により流布し、ユ帝法典は多くは現行法に等しい効力をもち、ないしは「書かれた理性ratio scripta」として尊重された。以来、西洋の法律学の歴史はユ帝法典(その注釈も含め)との格闘のなかから生れたものと言っても過言でない。フランス法およびドイツ法を継受した日本の民法もその流れの中にある。今日もなお民法典の条文の理解にもローマ法の知識が不可欠であると言われる理由もその点にあるのであろう。

ところで、中世ローマ法学が利用したユ帝法典の本文(ボローニア本あるいは流布本といわれる)は16世紀半ば以降人文主義法学の展開の中で、批判をうけ、多数の変更を蒙ることとなった。この結果、ユ帝法典につきどの校訂版を利用するかが大きな問題となることとなる。

本展観では、展示スペースとの関係で専ら『ローマ法大全』刊本の展示に限らざるをえなかった。本学に多数所蔵される中世ローマ法以降の法学著作の古刊本の展観については別の機会を持ちたい。

なお、左肩*印の3点はミュンヘン大学法学部 W.クンケル教授(1902-1981)の遺文庫に所蔵のものであることを示す。

1. 学説彙纂フィレンツェ(ピサ)写本(写真版)

JUSTINIANI AUGUSTI PANDECTARUM CODEX FLORENTINUS 2巻本

フィレンツェ, オレスキー社 1988年

2. デ・トルティス版学説彙纂後半部 (1487年)

Digestum novum (Sp. 41)

(トリノ, エラスムス社, 1969年復刻)

3. フラディン版学説彙纂後半部 (1518年) フォリオ版

Digestum novum (Sp. 118)



Fradin社社章



同書 D. 45,1 冒頭部分

4. ケルバー版法学提要 (1541年) オクターボ版

Institutiones (Sp. 162 f.)

5. バーゼル版バシリカ法典要約 (1575年) 1巻 クアルト版

Lx librorum BASILIKON, id est vniversi iuris Romani, avtoritate principum Rom. Graecam in linguam traducti, Ecloga siue Synopsis, hactenus desiderata nunc edita, per Joan. Levnclaium. Ex Joan. Sambvci V. C. bibliotheca. Item, Novellarum antehac non pvblicatarvm liber. Adiunctae sunt et Adnotationes interpretis, quibus multae leges multaque loca iuris ciuilis restituuntur et emendantur. Basileae, per Evsebivm Episcopivm, M D LXXV

*6. ボドツァ版ローマ法大全 (1593年) 4巻 クアルト版

Universi iuris civilis corpus (Sp. 342)

7. ゴットフレッドウス=フェーイ版 ローマ法大全 (1627年) 6巻 フォリオ版

Corpus iuris civilis Justinianei (Sp. 418)

(オスナブリュック, オット・ツェラー社, 1965年復刻)

*8. ゴットフレッドウス=レウヴェン版ローマ法大全 (1688年) 1巻 クアルト大版

Corpus iuris civilis (Sp. 492)

9. ゴットフレッドウス=レウヴェン版 ローマ法大全 (注記付) (1726年) 2巻 フォリオ版

Corpus iuris civilis (Sp. 534)

*10. ゲバウエル版ローマ法大全 1776/1797年 2巻 クアルト大版

Corpus iuris civilis (Sp. 572)

各刊本に対する説明は割愛。なお, Sp. 番号は Ernst Spangenberg, Einleitung in das Römisch=Justinianeische Rechtsbuch, Hannover 1817 による「ローマ法大全」刊本 整理番号を示す。

(((図 書 館 統 計)))

平成元年度 中央図書館・医学分館・ 教養部分館 サービス統計

利用対象者	18,955人	中央館	9,372人	医学分館	4,040人	教養部分館	5,543人
-------	---------	-----	--------	------	--------	-------	--------

入館者数延	735,234人	中央館	360,703人	医学分館	109,011人	教養部分館	265,520人
-------	----------	-----	----------	------	----------	-------	----------

館外貸出冊数	114,046冊	中 央 館	理 学 部	農 学 部	医 学 分 館	教 養 部 分 館
教 職 員	36,773	6,484	2,256	1,781	12,529	13,723
学 生	72,731	36,449	5,766	2,066	15,486	12,964
学 外 者	4,542	1,192	864	328	2,158	0

レファレンス利用件数	18,187件	中 央 図 書 館	医 学 分 館	教 養 部 分 館
教 職 員	9,050	2,166	5,025	1,859
学 生	6,017	4,109	315	1,593
学 外 者	3,120	1,558	1,535	27
所 在 調 査	14,508	7,085	5,857	1,566
事 項 調 査	1,773	320	583	870
利用指導その他	1,906	428	435	1,043

オンライン情報検索サービス	9,579件	中 央 図 書 館	医 学 分 館
学内システム	6,438	5,518	920
学外システム	3,141	214	2,927

文 献 複 写	179,492件	中 央 図 書 館	医 学 分 館
電 子 複 写	1,433,955枚	877,760 枚	556,195 枚
学内者からの受付	152,482件	89,941 件	62,541 件
他大学からの受付	15,645℃	6,502 ℃	9,143 ℃
その他からの受付	11,365℃	1,119 ℃	10,246 ℃

相 互 協 力	7,453件	37,928枚
受 付		249冊
依 頼		143℃
大学の機関に複写	28,455枚	
その他の機関に複写	9,473℃	
外 国 と の 協 力	7,061件	

中 央 図 書 館		医 学 分 館	
受 付	依 頼	受 付	依 頼
228冊	129冊	21冊	14冊
6,502枚	2,260枚	12,361枚	7,332枚
1,119℃	411℃	7,918℃	25℃
4件	48件	6,981件	28件

ファックスG3・G4利用状況	参考調査受信 250件	複写申込受信 21件
中央図書館 1,201件	℃ 回答 261℃	℃ 資料送信 15℃
	℃ 依頼 17℃	℃ 依頼送信 19℃
	℃ 回答 17℃	℃ 資料受信 18℃
	G3・4館中継 504℃	事 務 連 絡 79℃

(((お知らせ)))

CD-ROM等ニューメディアの時代

今秋、IBM 互換機能をもったパソコン ソニー Quarter-L と CD-ROM ドライバーとしてパイオニア CD-ROM チェンジャーを利用者用として中央図書館 2 階研究者閲覧室の一隅に設置しました。ソフトは大変高価ですが少しずつ購入してゆく計画です。去る10月26日(金)午後に、業者の提供ソフトにより、Agricola, Biological Abstracts, Science Citation Index, NTIS, Sociofile, Eric, PsycLIT, LISA, Current-Contents on Diskette等を関係部局研究者に呼びかけて系統別の実演したところ、研究者・学生・図書系職員多数が見学し盛況でした。

今後、これらのハード・ソフト等の運用など充分に検討して利用者サービスの充実に力を入れてゆきたいと思っています。

(((利用の窓)))

大学共同利用機関等の相互利用が可能となりました

右記の17の国の研究機関と国立大学図書館協議会との間の協定により、両者の相互利用が国立大学図書館と同じ方式で行われることが可能となり互に便利になりました。院生以上の方で、利用を希望される方は附属図書館 2 階情報サービス課相互利用掛カウンターへ学生証・身分証明書を持参して「国立大学図書館間共通閲覧証」の発行を受けてください。

この閲覧証で通常開室日には各機関の資料を閲覧することができます。

高エネルギー物理学研究所
国文学研究資料館
国立極地研究所
宇宙科学研究所
国立遺伝学研究所
統計数理研究所
国際日本文化研究センター
国立天文台
核融合科学研究所

岡崎国立共同研究機構
学術情報センター
国立民族学博物館
国立歴史民俗博物館
放送教育開発センター
国立特殊教育総合研究所
国立国語研究所
国立教育研究所

(情報サービス課 相互利用掛)

(((資料紹介)))

平成元年度 特別図書リスト

Actualité juridique droit administratif.
Vol. 24(1968)-34(1978)
(フランス行政法研究誌)

AFRICA: Journal of International African Institute.
Vol. 1(1928)-26(1956)
(アフリカ: 国際アフリカ協会誌)

Contemporary Educational Psychology.
Vol. 1(1976)-13(1988)
(現代教育心理学)

The Correspondence of Hugo Grotius. Ed. by B. L. Meulenbroek.
Vol. 3(1961)-12(1986)
(フーゴー・グロティウス 書簡集)

Far Eastern Economics Review.
Years. 1946/47-1969 in 32 reels.
(極東経済誌)

IBZ-Internationale Bibliographie der Zeitschriftenliteratur.
Bd. 22(1986)-23(1987)
(雑誌記事索引)

The Oxford English Dictionary.
2nd. ed. 20 Vols.
(オックスフォード英語大辞典 改定第2版)

Praxis des internationalen Privat- und Verfahrensrechts.
Vol. 1(1981)-6(1986)
(実務 国際私法・手続法)

Standesamt.
Vol. 27(1954)-39(1986)
(戸籍雑誌)

Zeitschrift für ausländisches öffentliches Recht und Völkerrecht.
Bb. 23(1963)-32(1972)

(外国公法・国際法雑誌)

徴発物件一覧表

陸軍省刊 明治8年—44年 解説付 24リール

古典籍総合目録

国書総目録 続編 全3巻

日本植民地教育政策史料集成(朝鮮編)(全68巻)
第5, 6集

本学教官・名誉教授著作寄贈図書

《中央図書館》

武野 秀樹(経)

「国民所得論」

九州大学出版会 1990

中野 三敏(文)

「近世活字版目録」多治比郁夫共編

青裳堂書店 1990

平嶋 義宏(農)

「クモの学名と和名—その語源と解説—」

九州大学出版会 1990

矢田 俊文(経)

「地域構造の理論」

ミネルヴァ書房 1990

《教養部分館》

辛島 正雄(養)

「論集源氏物語とその前後Ⅰ」

新典社 1990

宮地 六美(養)

「アメリカで英語について考えた」

石風社 1990

《教育学部》

新谷 恭明(育)

「旧制中学校沿革史文献目録」「千鳥小学校
十年史」

中等教育史研究会 1990, 1990

《法学部》

土井 政和(法)

「現代における刑事法学の課題—井上祐司先
生退官記念論集—」

権歌書房 1989

大石 眞(法)

「議院法制定史の研究」

成文堂 1990

《経済学部》

荻野 喜弘(経)

「戦前期筑豊炭鉱業の経営と労働」

啓文社 1990

《理学部》

渋谷 喜夫(理)

「基礎電磁気学」

養賢堂 1972

◆ 人事異動 (平成2年5月~10月)

6.15 和気いづみ 退職 閲覧掛(事務補佐員)

16 秋平 洋子 採用 閲覧掛(事務補佐員)

8.9 豊福 朱実 退職 相互利用掛(事務補佐員)

10 村田 香織 採用 相互利用掛(事務補佐員)

◆ 日 録 (平成2年5月~10月)

5.7 図書館商議委員会

6.4 平成2年度国立大学附属図書館事務部課長会議
(於東京医科歯科大)5 平成2年度国立大学図書館協議会賞受賞者選考
委員会(於東京大)

6 平成元年度第3回理事会(於東京大)

11 平成2年度福岡県・佐賀県大学図書館協議会総

会(於福岡女子大)

6.27 第37回(平成2年度)国立大学図書館協議会準備
理事会(於熊本大)28 国立大学図書館協議会総会・研究会
(於熊本大)29 国立大学図書館協議会分科会・全体会議理事会
(熊本大)編集委員 主査・橋本 健一, 委員・落石 清, 大神 義生, 園田 国昭(中央図書館), 尾上 五男(薬),
山崎 弘人(教養部分館), 岸本 澄夫(農), 田嶋 秀晃(文)

九州大学図書館報「図書館情報」 Vol. 26, No. 3 (通巻158)

1990年11月1日・発行人 相良 侯 秀

発行所 九州大学附属図書館・〒811福岡市東区箱崎6丁目10番1号 電話 641-1101 内線 2454